

ActiveTalk 2.0

Guide

Active Open Communications K.K

目次

目次	2
著作権について	3
ソフトウェア使用許諾契約書	4
はじめに	5
稼働環境	5
パッケージ内容	5
特徴	6
使用中のご注意	7
インストール方法	8
アンインストール方法	8
ユーザ登録	9
使用方法	10
ステータスライン	14
アップルメニュー	18
ファイルメニュー	18
編集メニュー	22
設定メニュー	23
スクリプトメニュー	39
オプションメニュー	42
表示メニュー	44
ファイル転送ダイアログ	45
スクリプトコマンド	46
エスケープシーケンス	52
Q&A	56
サポート窓口	57
リリースノート	57

最新情報やライセンスキー購入方法は <http://www.activeopen.co.jp> をご覧下さい。

ActiveTalk 2.0 Guide 2004 年 5 月 8 日

著作権について

このマニュアル及びマニュアルで解説するソフトウェアの著作権は、株式会社アクティヴオープンコミュニケーションズが全て保有しています。

著作権法により、ソフトウェア使用許諾契約書に記述された場合を除き、当社の書面もしくは電子メールによる許可無しに、いかなる形式（電子的・磁氣的・写真・録音・その他）にせよ、このマニュアル及びソフトウェアの全部または一部を複製・蓄積・送信することを禁じます。

複製が許可されている場合、オリジナルに添付されている所有権と著作権と同じ文書を複製物に添付しなければなりません。他の全ての登録商標は、それぞれの所有者の所有物です。

ActiveTalk の 68000 コードは Symantec 社の Symantec C++ 8.0.4/THINK C 8.0 Translator で開発されています。

ActiveTalk の PowerPC コードは Metrowerks 社の CodeWarrior 9.2 で開発されています。

Copyright (c) 1995-2004 Active Open Communications K.K. All rights reserved.

ソフトウェア使用許諾契約書

定義

本契約において次の用語は次の定義を有するものとします。

- ・ 「弊社」とは株式会社アクティヴオープンコミュニケーションズをいいます。
- ・ 「使用者」とは本パッケージを取得し使用する個人又は事業体をいいます。
- ・ 「パッケージ」とは、ソフトウェア、マニュアルおよびその他本契約に添付される品目をいいます。

許可される使用

弊社は下記に定める条項に従って、本パッケージのソフトウェアを使用する、譲渡不能の非独占的使用権を使用者に許可します。

- ・ 使用者は、一度に一台のコンピュータで本パッケージのソフトウェアを使用することができます。
- ・ バックアップ用として、ソフトウェアの複写を一部作成することができます。この複製物は自動的に弊社の所有権に帰属し、本契約に従うものとします。

禁止される行為

使用者が次の事項をなすことは禁止されています。

- ・ 使用者が一台のコンピュータで個人的に使用する場合を除き、ソフトウェアを改変し、またはそれを他のプログラムと併合すること。ソフトウェアの改変、併合された部分は本契約に従うものとします。
- ・ 弊社の書面による同意なしに、ソフトウェアに関する二次的開発物を翻訳、または作成すること。
- ・ ソフトウェアの著作権、特許権その他所有権の表示を取り外し、または判読不明にしたり変更したりすること。
- ・ ソフトウェアのリバース・エンジニアリング、ディスアセンブル、デコンパイル等をなし、ソフトウェアのソース・コードを解明しようとする。
- ・ ソフトウェアの再使用許諾、販売、貸し出し（賃貸を含む）をすること。もし、使用者が本契約に違反した場合には、自動的に使用権許諾は無効となり、使用者は本パッケージに含まれるソフトウェア、マニュアルその他を弊社に返還するか破棄しなければなりません。
- ・ 使用者がライセンスキーをインターネット等に公開すること。

限定保証

弊社は、弊社が納得した時点において、ソフトウェアが最新のものであり、弊社の設定した仕様に一致していることを保証します。弊社は、ソフトウェアにバグ、エラー、および脱落がないことを保証しません。もし、ソフトウェアが上記の保証に一致しなかった場合には、弊社はディスク交換やアップデートを含む合理的な努力を尽くします。弊社は、本パッケージの使用に伴う、直接、間接の損失に関して何らの責任を負いません。コンピュータ・プログラムまたはデータの復旧、回復に要する費用を含めて、弊社の製品に記憶され使用されたコンピュータ・プログラムにつき、一切の責任を負いません。

APPLE COMPUTER, INC. ("APPLE") MAKES NO WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, REGARDING THE APPLE SOFTWARE. APPLE DOES NOT WARRANT, GUARANTEE OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE OR THE RESULT OF THE USE OF THE APPLE SOFTWARE IN TERMS OF ITS CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, CURRENTNESS OR OTHERWISE. THE ENTIRE RISK AS TO THE RESULTS AND PERFORMANCE OF THE APPLE SOFTWARE IS ASSUMED BY YOU. THE EXCLUSION OF IMPLIED WARRANTIES IS NOT PERMITTED BY SOME STATES. THE ABOVE LIMITATIONS MAY NOT APPLY TO YOU.

IN NO EVENT WILL APPLE, ITS DIRECTORS, OFFICERS, EMPLOYEES OR AGENTS BE LIABLE TO YOU FOR ANY CONSEQUENTIAL, INCIDENTAL OR INDIRECT DAMAGES (INCLUDING DAMAGES FOR LOSS OF BUSINESS PROFITS, BUSINESS INTERRUPTION, LOSS OF BUSINESS INFORMATION, AND THE LIKE) ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE APPLE SOFTWARE EVEN IF APPLE HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. BECAUSE SOME STATES DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OR LIMITATION OF LIABILITY FOR CONSEQUENTIAL OR INCIDENTAL DAMAGES, THE ABOVE LIMITATIONS MAY NOT APPLY TO YOU.

はじめに

この度は ActiveTalk をお買い上げ（もしくはデモ版を試用して）いただき誠にありがとうございます。ActiveTalk はマッキントッシュ初心者から上級者の方々まで幅広い利用を目指したマッキントッシュ用汎用通信ソフトウェアです。

ActiveTalk OEM 版（カスタマイズ、サイトライセンス、貴社の商品へのバンドル等）も承っております。詳細は activeopen@mac.com 山田宛に電子メールでお問い合わせ下さい。

稼働環境

ActiveTalk を使用するためには、以下の環境が必要です。

- ・ Apple Macintosh Plus 以降の各機種（Power Macintosh を含む）
- ・ System 6.0.7 / Mac OS X 10 以降のシステムソフトウェア

パッケージ内容

ファイル名	Active Pack.img	(Disk Copy イメージ)
パッケージ内容	ActiveTalk	(プログラム)
	ActiveTalk-DA	(デスクアクセサリ)
	ActiveTalk.pdf	(マニュアル)
	ASLFont+3.0	(等幅日本語フォント)

特徴

- ・簡単にセットアップできるアシスタントメニュー

ログイン・ログアウト設定を簡単に行えるアシスタントメニューを提供していますので、初心者の方々でも安心して使用できます。

- ・高速バッファリングスクロール

ActiveTalk は受信能力を飛躍的に向上させることができる高速バッファリングスクロール機能を提供しています。

- ・VT52 / VT100 (VT80) エミュレーション

DEC社のターミナルと互換性の高いターミナルエミュレータを内蔵していますので、unix端末ソフトウェアとしてもご利用いただけます。

- ・各種ファイル転送プロトコル

XMODEM / YMODEM / ZMODEM / Kermit / B+プロトコルをサポートしています。

- ・Communication Toolboxをサポート

Communication Toolboxの コネクションツールとファイル転送ツールとサポートしていますので市販品やフリーウェアの Telnet Tool / FTP Tool等をご利用になれます。

- ・バイリンガルメニューをサポート

日本語メニューの他に英語メニューを動的に指定可能です。英語システムで起動した場合は自動的に英語メニューで動作します。

使用中のご注意

- ・ 大切なデータは必ず保存してください。お客様が操作を誤ったり本製品に異常が発生した場合、データが消失することがあります。
- ・ 本製品の不具合による損害、文書やデータの消失による損害、その他本製品の使用により生じた損害については当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- ・ 本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。
- ・ このソフトウェアは著作権法及び国際条約により保護されています。

インストール方法

アーカイブファイルは、「ディスクユーティリティ」の圧縮されたディスクイメージフォーマットで配付されています。ファイルをダブルクリックしてイメージファイルをマウントして下さい。

- ・ System 6.0.7 / 漢字Talk 6.0.7の場合

Font/DA Mover を使用して ASLFont+3.0 と ActiveTalk-DA をシステムにインストールします。

- ・ System 7 / 漢字Talk 7 / Mac OS 8 / Mac OS 9 / Mac OS Xの場合

ActiveTalk アプリケーションをハードディスクにコピーします。

アンインストール方法

- ・ System 6.0.7 / 漢字Talk 6.0.7の場合

Font/DA Mover を使用して ASLFont+3.0 と ActiveTalk-DA をシステムから削除します。

システムフォルダの初期設定フォルダ内の ActiveTalk Prefs と ActiveTalk Log を削除します。

- ・ System 7 / 漢字Talk 7 / Mac OS 8 / Mac OS 9 / Mac OS Xの場合

ActiveTalk アプリケーションと、システムフォルダの初期設定フォルダ内の ActiveTalk Log と ActiveTalk Prefs を削除します。

ユーザ登録

ActiveTalk を初めて起動した時に、ユーザ登録ダイアログが表示されます。電子メールアドレスとライセンスキーを入力後、「OK」ボタンをクリックして下さい。



電子メールアドレス

電子メールアドレスを半角で入力します。

ライセンスキー

ライセンスキーを半角で入力します。ライセンスキーは大切に保管して下さい。

デモ

デモモードで起動します。デモの制限事項は以下の通りです。

- ・ 制限時間は10分間です
- ・ アップロードはできません
- ・ ダウンロードは128キロバイト以下です

使用方法

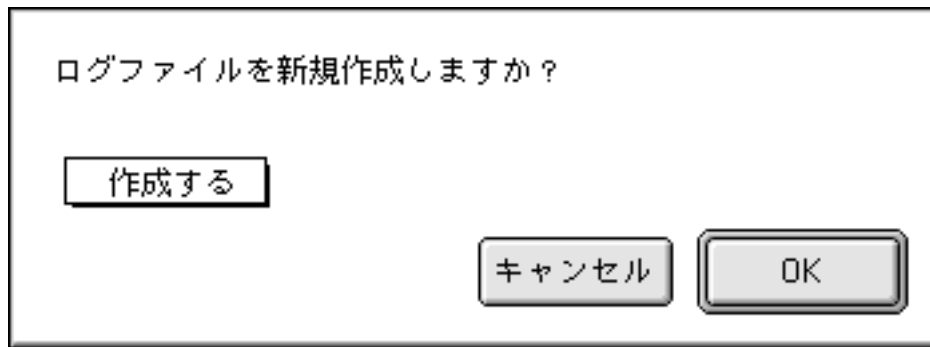
ActiveTalkの設定例をご紹介します。

フリーshell プロバイダの cyberspace.org <<http://www.cyberspace.org>>に Telnet 接続してみましょう。

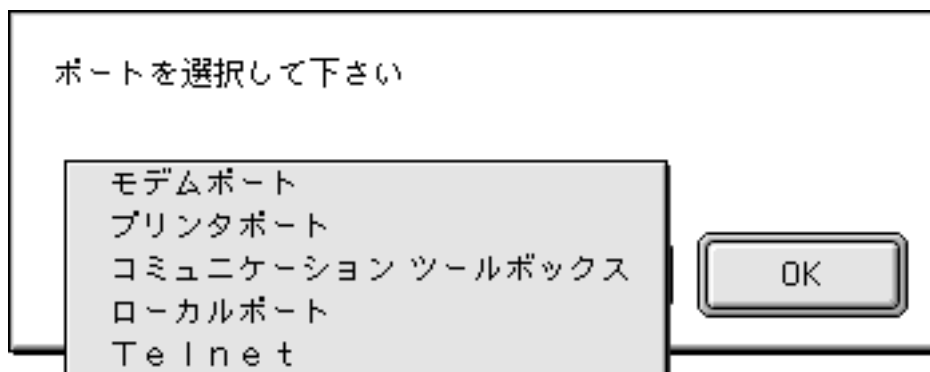
まず、ActiveTalk の設定メニューの「アシスタント...」を選択して下さい。

ログファイルを新規作成するか、どうか尋ねてきます。

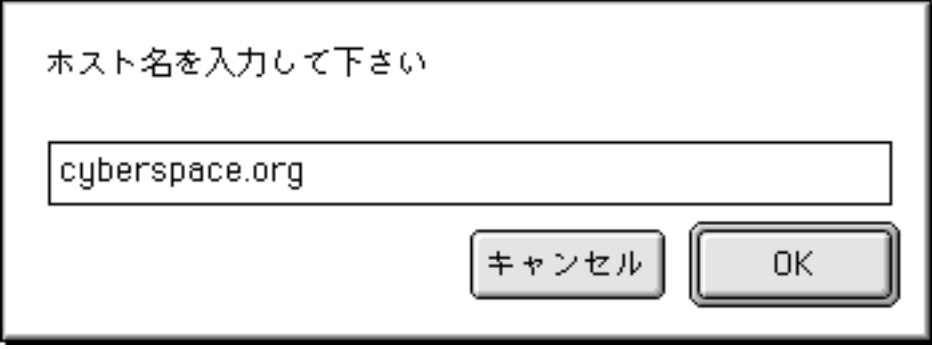
新規作成する場合はファイル名を指定して下さい。



次にポートを選択します。「Telnet」を選択して、「OK」をクリックして下さい。



ホスト名を尋ねられますので、「cyberspace.org」と入力して「OK」をクリックして下さい。

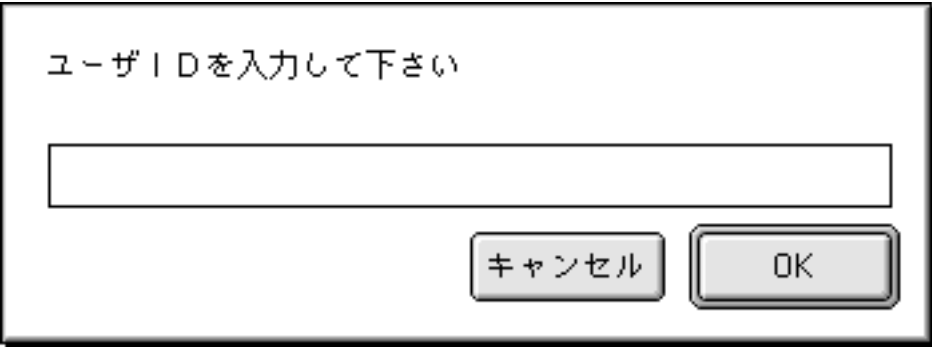


ホスト名を入力して下さい

cyberspace.org

キャンセル OK

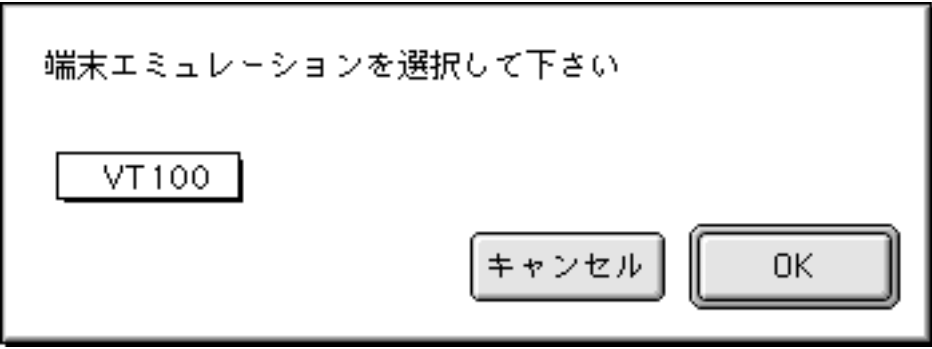
ユーザIDを入力して「OK」をクリックして下さい。



ユーザIDを入力して下さい

キャンセル OK

端末エミュレーションを選択します。「TTY (エミュレーションなし)」「VT52」「VT100」の3種類から選択して下さい。

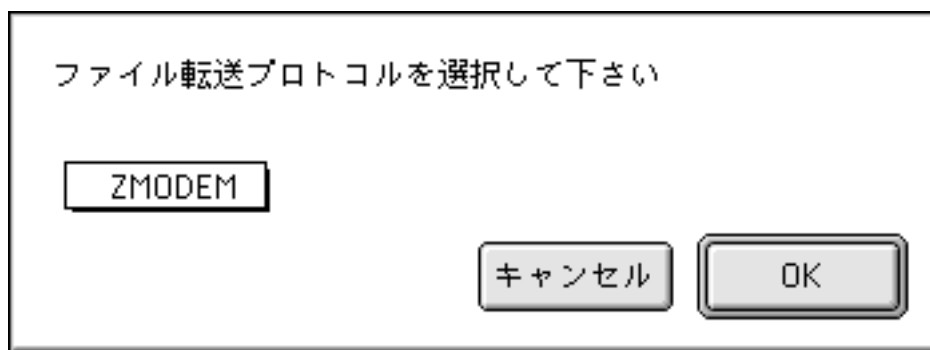


端末エミュレーションを選択して下さい

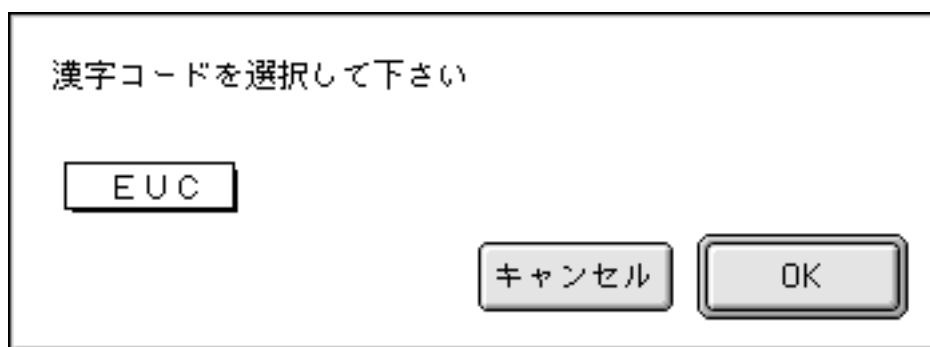
VT100

キャンセル OK

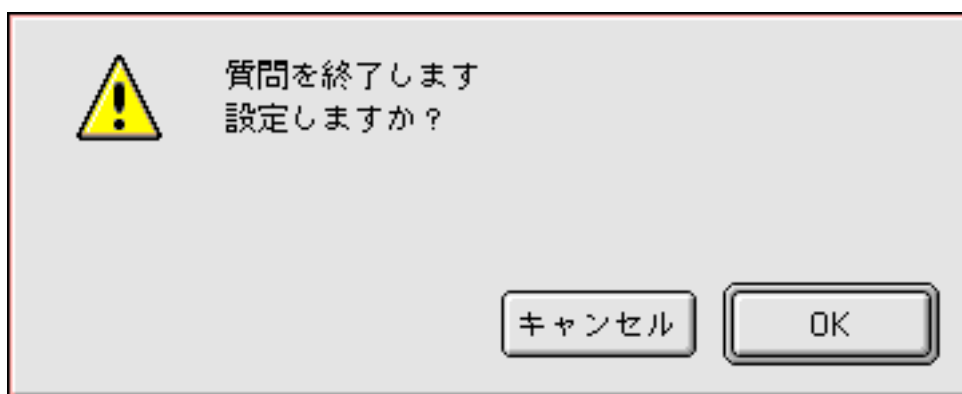
ファイル転送プロトコルを選択します。「XMODEM」「YMODEM」「ZMODEM」「Kermit」の4種類から選択して下さい。



漢字コードを選択します。「シフトJIS」「EUC」「新JIS」「旧JIS」の4種類から選択して下さい。



全ての質問は終了しました。設定する場合は、「OK」をクリックして下さい。



これで設定は完了です

ログインするには、オプションメニューの「ログイン...」を選択します。

*** RLI:Login 04.05.08 14:44:00

GreX central timekeeping. At the beep, the time is
1:44AM on Saturday, 08 May 2004

New to grex? Type help at the login prompt

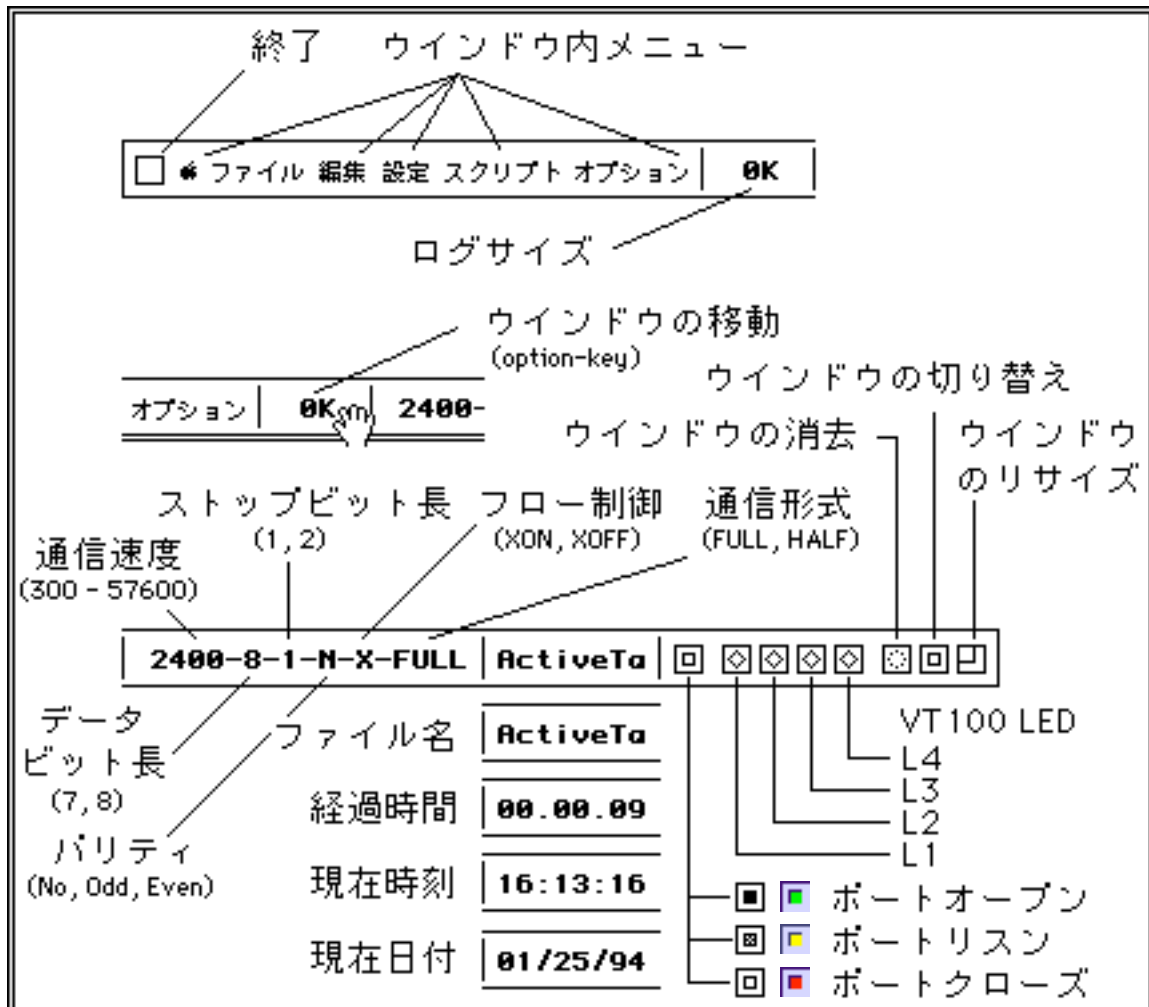
(ttypc) grex login: user

user's Password:

...

ActiveTalk の Telnet 接続で cyberspace.org にアクセスできました。

ステータスライン



ステータスラインアイテム

終了ボタン

アプリケーションを終了します。

ウィンドウ内メニュー

デスクアクセサリ用メニューです。

スクリプト使用時にはコマンドが表示されます。

ログサイズ

ログファイルのファイルサイズを表示します。ウインドウを移動する場合はこのエリアをマウスでドラッグして移動します。オプションキーを押しながらドラッグすると垂直移動しかできないようになります。

通信中にハードディスクの空き容量が少なくなり128キロバイト以下になった場合、ログサイズが空き容量を黒色で表示しカウントダウンします。表示が0になる前にアプリケーションを終了して下さい。

通信速度

通信速度を表示します。速度は300から57600bpsまでサポートしています。高速に変更する場合は右側を、低速なら左側をマウスでクリックします。

データビット長

データビット長を表示します。値は7か8です。

パリティ

パリティを表示します。パリティなし (No)、奇数パリティ (Odd)、偶数パリティ (Even)を指定できます。

フロー制御

フロー制御を表示します。XON/XOFF フロー(X)、フロー制御なし(N)を指定できます。

通信形式

通信形式を表示します。全二重(FULL)、半二重(HALF)を指定できます。半二重の場合は入力文字をエコーバックします。

ログファイル名

ログファイル名を表示します。(最大8文字まで表示)

経過時間

アプリケーション起動後もしくはログイン後の経過時間を表示します。

現在時刻

現在の時刻を表示します。

現在日付

現在の日付を表示します。

ログファイル名表示がデフォルトです。この表示の右側をマウスでクリックすると経過時間・現在時刻・現在日付に切り替えられます。中央をクリックすると経過時間をスタート・ストップ・リセットします。左側をクリックすると現在日付・現在時刻・経過時間と逆回りに切り替えます。

ウインドウの消去

ウインドウの切り替え

ウインドウのリサイズ

表示メニューの説明をご覧ください。

以下の2つは画面サイズが640×480以上のマシンのみ表示されます。

ポートステータス

ポートがオープン（使用中）・クローズ（切断中）・リスン（接続要求許可中）を表示します。

VT100 LED

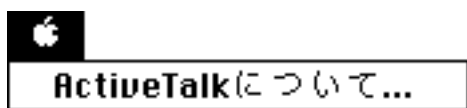
VT100 端末の LED ランプの状態を表示します。

設定方法

マウスでクリックして切り替えます。通信速度・ログファイル名のエリアは右側と左側がクリックできます。

日本の商用 BBS は、データビット長が8ビット、ストップビット長が1ビット、パリティなし、XON/XOFF フロー制御、全二重を一般的に使用しています。(2400-8-1-N-X-FULL) アメリカの商用 BBS ではデータビット長が7ビット、偶数パリティの所が多いようです。(2400-7-1-E-X-FULL)

アップルメニュー



ActiveTalk について...

アバウト画面を表示します。

ファイルメニュー

ファイル	
新規...	⌘N
開く...	⌘O

一部を保存...	⌘S

テキスト送信...	⌘U
テキスト記録開始...	⌘D

HMODEM マックバイナリ送信...	⌘T
HMODEM マックバイナリ受信...	⌘R

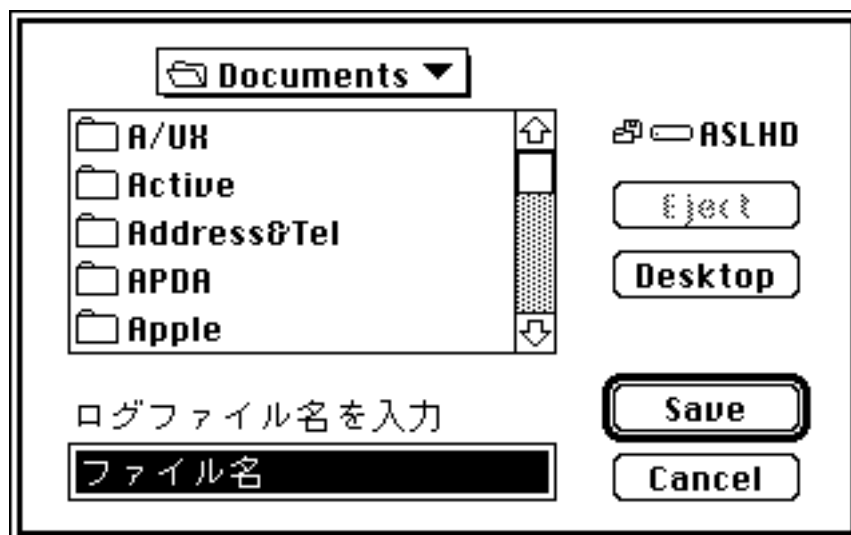
終了	⌘Q

新規...

ログファイルを新たに作成する場合に使用します。ログファイルとは受信データが格納されるファイルであり、その他にもログイン・ログアウトスクリプト情報・端末の設定情報・ファイル転送設定情報等も格納されます。

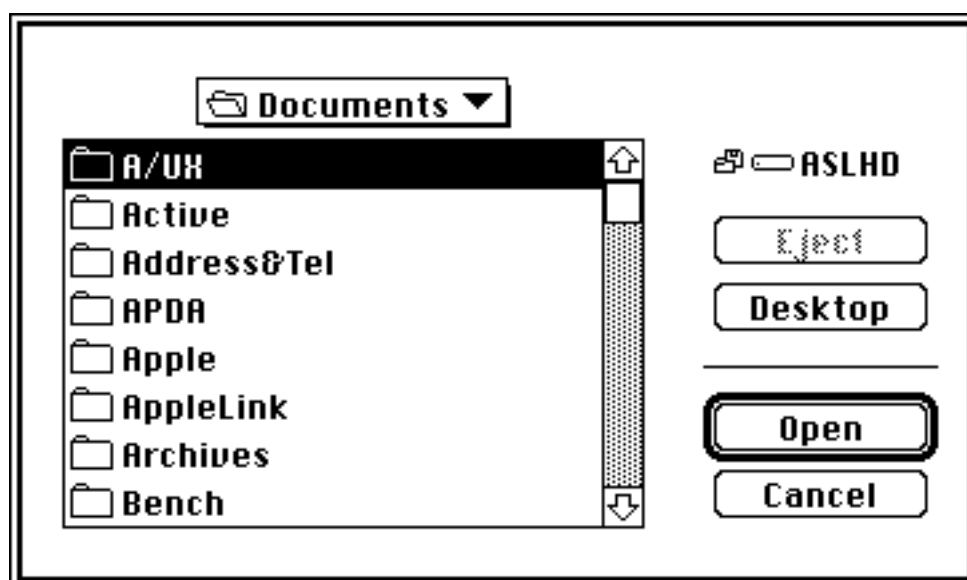
ログファイルにパスワードが情報として入りますのでログファイルをむやみに人に渡さないで下さい。特にパスワードロックを掛けておかない場合、パスワードを盗用される場合があります。

このメニューを選択すると以下のようなダイアログが表示されますのでファイル名を指定して保存して下さい。



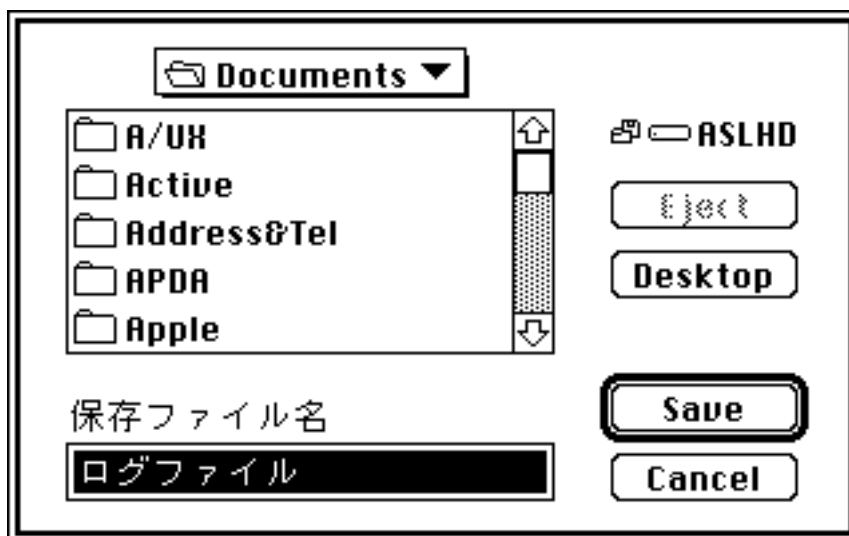
開く...

違うログファイルを開く場合に使用します。以下のようなダイアログが表示されますので、ファイルを選択して下さい。



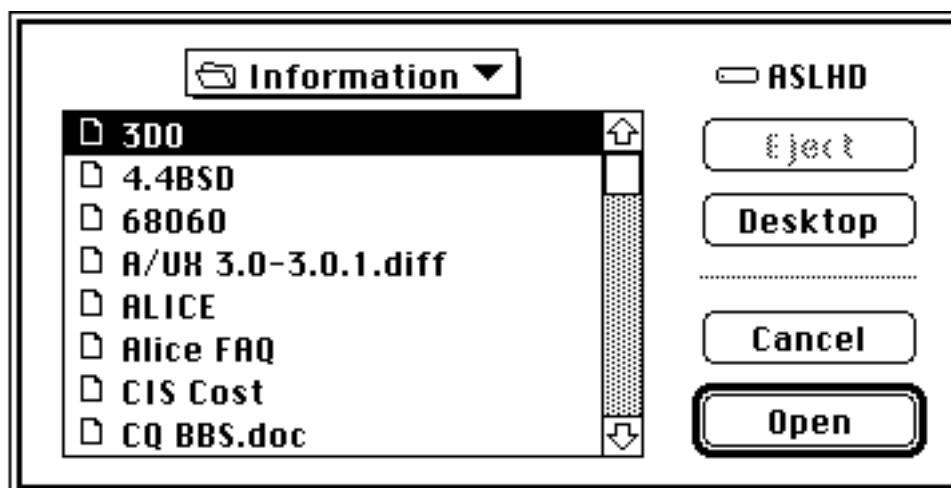
一部を保存...

ログファイルの一部を保存する場合に使用します。クリップボードに入りきらない大きなログを保存する場合に有用です。マウスで指示した範囲をファイルとして保存することができます。保存ファイルには各種設定情報は含まれませんので、他の人に受信データを渡す場合に御利用下さい。



テキスト送信...

テキストファイルを送信する場合に使用します。ダイアログに表示されるファイルはテキストファイル（ファイルタイプが 'TEXT'）です。



テキスト記録開始...

受信データは通常ログファイルに残りますが、ラインフィードやヌルキャラクタなどの一部の特殊文字はログファイルに記録されません。

この「テキスト記録開始...」メニューは受信データを加工することなくファイルに記録したいときに使用します。以下のダイアログが表示されますのでファイル名を指定して保存して下さい。



「テキスト記録開始...」メニューは「テキスト記録を終了」に変わります。記録を終了するときに、このメニューを選択します。アプリケーションを終了すると自動的に記録を終了します。

バイナリ送信...・バイナリ受信...

XMODEM / YMODEM / ZMODEM / Kermit の送受信に使用します。

終了

ActiveTalk を終了します。

編集メニュー

編集	
取り消し	⌘Z
カット	⌘X
コピー	⌘C
ペースト	⌘V
消去	
すべてを選択	⌘A

コピー

ログファイルからクリップボードにテキストデータを転送します。

ペースト

クリップボードのテキストデータを送信します。

すべてを選択

ログファイルをすべて選択します。既にすべてのログファイルが選択されている場合は選択を解除します。

設定メニュー

設定	
アシスタント...	⌘I

ログイン & ログアウト...	
端末...	
ファイル転送...	
入会 & モデム...	

英語メニュー	

アシスタント...

簡易設定のためにアシスタント機能をサポートしています。

以下はモデムポート選択時の質問内容です。

ログファイルを新規作成する・作成しない
ポートを指定 (モデム・プリンタ・C.T.B.・ローカル・Telnet)
スピードを選択 (300,1200,2400,4800,9600,19200,38400,57600)
電話番号を入力
ユーザIDを入力
端末エミュレーションを指定 (TTY,VT52,VT100)
ファイル転送プロトコルの指定 (XYZMODEM / Kermit / C.T.B.)
データビット長を指定 (7,8)
ストップビット長を指定 (1,2)
パリティを指定 (パリティなし、偶数パリティ・奇数パリティ)
漢字コードを指定 (シフト JIS,EUC,新 JIS,旧 JIS)

ログイン & ログアウト

ログイン及びログアウトのスク립トを編集します。

ログイン設定

サービス名 **ActiveTalk Log**

リトライ 回 秒間隔

起動時にログイン実行 接続時にビープ音

起動時にログアウト実行 ATコマンド表示

起動時にパスワード確認

ログイン
 ログアウト

一覧表

スク립ト例

OK

キャンセル

リトライ

ダイアルに失敗した後で再試行する場合にチェックします。再試行回数とダイアル間隔が指定できます。

起動時にログイン実行

ログファイルを開いたときに自動的にログインスク립トを実行します。
このオプションをオンに設定していても、ログファイルを開くときにシフトキーを押していれば自動実行されません。

起動時にログアウト実行

ログファイルを開いたときに自動的にログアウトスクリプトを実行します。このオプションをオンに設定していても、ログファイルを開くときにシフトキーを押していれば自動実行されません。

起動時にパスワード確認

入会設定でパスワードをロックしている場合にのみ有効です。ログファイルを開いたときにパスワードを確認させたい場合にチェックします。第三者にログファイルや設定情報を変更・参照されたくない場合に有効です。パスワードダイアログのキャンセルボタンを押すと強制終了します。

接続時にビープ音

ダイアルで接続が確認された時にビープ音を鳴らす場合にチェックします。ビープ音は2回鳴ります。

AT コマンド表示

ダイアル中や回線切断中のモデムの応答文字列（OK, CONNECT, NO CARRIER, BUSY, +++等）を表示する場合にチェックします。デフォルトはオンです。

ログイン・ログアウト

左のスクリプト編集領域にどちらのスクリプトを表示するか指定します。

一覧表

スクリプトコマンドの一覧表を表示します。

スクリプト例

スクリプトコマンドの使用方法を表示します。

OK

設定情報を保存し、設定を終了します。

キャンセル

変更された設定情報を破棄し、設定を終了します。

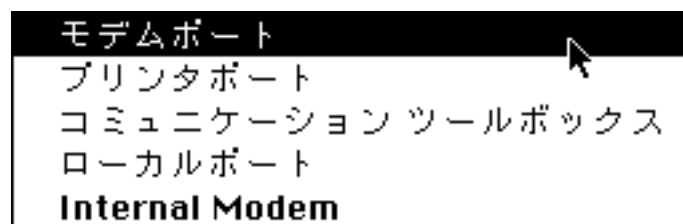
端末...

端末設定

ポート	モデムポート		
エミュレーション	<input checked="" type="radio"/> TTY	<input type="radio"/> VT52	<input type="radio"/> VT100
コントロールキー	<input checked="" type="radio"/> コントロール	<input type="radio"/> オプション	<input type="radio"/> コマンド
漢字コード	<input checked="" type="radio"/> SJIS	<input type="radio"/> EUC	<input type="radio"/> 新JIS <input type="radio"/> 旧JIS
<input checked="" type="checkbox"/> 80桁ラップモード	<input type="checkbox"/> CRの後に LFを送信		
<input checked="" type="checkbox"/> テキスト記録	<input type="checkbox"/> ラップ Upload / Paste		
<input type="checkbox"/> BSキーは DELキー	<input type="checkbox"/> `キーは ESCキー		
<input type="checkbox"/> ハートウェアハートシェイク	<input type="checkbox"/> DTRを維持		
<input checked="" type="checkbox"/> 20行表示	<input checked="" type="checkbox"/> 高速スクロール		
アンサーバック	VT100		
キャラクター待ち	0	ライン待ち	0
<input checked="" type="checkbox"/> TAB拡張	4	<input type="checkbox"/> 同期キャラクター	^M

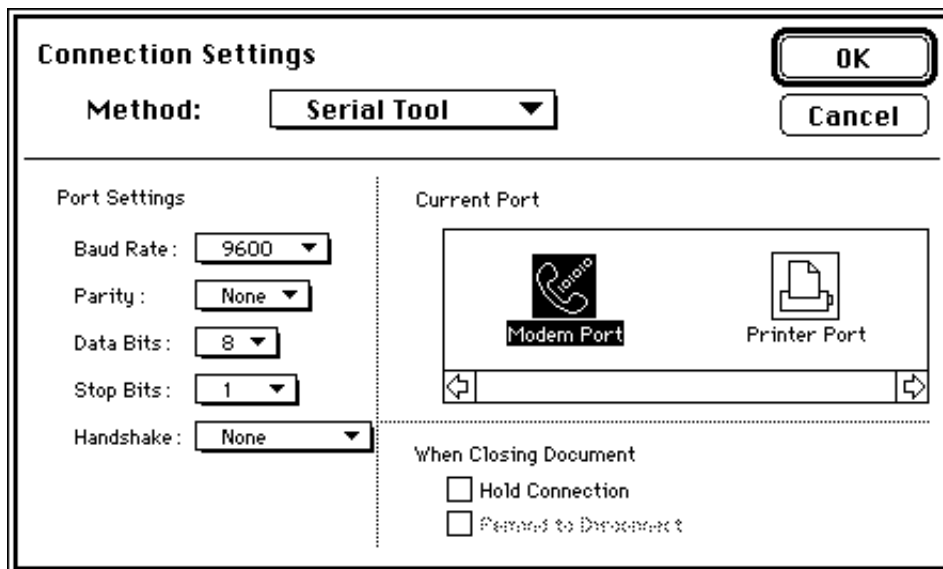
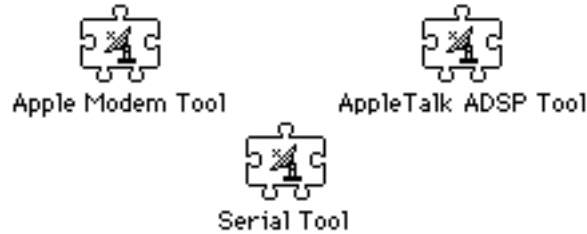
ポート指定

モデムポート・プリンタポート・Communication Toolbox コネクションツール、ローカルポート (VT100 デバック用)、ダイレクトドライバポート (Apple社 PowerBook Duo Internal Modem 等)、T e l n e t を指定できます。ダイレクトドライバポートを使用している場合は、ステータスラインのスピードの左下に点が表示されます。



19200-8-1-N-X-FULL

Communication Toolbox を使用するには、System 6 の場合はシステムフォルダの Communications Folder に、System 7 の場合はシステムフォルダ内の機能拡張フォルダにコネクションツールを入れて下さい。



エミュレーション指定

端末エミュレーションを指定します。TTY・VT52・VT100 が指定できます。エスケープシーケンスを使用しない BBS (NIFTY-Serve 等) では TTY を指定して下さい。

コントロールキー指定

コントロールキーのないマッキントッシュ (Mac Plus 等) でコントロールキーをオプションキーやコマンドキーで代用するために使用します。

漢字コード指定

漢字コードを指定します。SJIS (シフト JIS)・EUC (Extended Unix Code)・新 JIS・旧 JIS を指定できます。

80 桁ラップモード

端末の最右端で折り返しする場合にチェックします。

CR の後に LF 送信

リターンキーを入力した後にラインフィードを送信する場合にチェックします。

テキスト記録

ログファイルを記録する場合にチェックします。これをオフに設定した場合はコピーやスクロールができなくなります。

ラップ Upload / Paste

テキスト送信やペーストを行ったときに72文字目で自動的にリターンキーを送信する場合にチェックします。

BS キーは DEL キー

Backspace キーや delete キーを DEL キーとして使用する場合にチェックします。一部の unix 端末では DEL キーを使用しています。コマンドキーを押しながらキーを押すと反対のキーを指定できます。

` キーは ESC キー

` キーを ESC (エスケープ) キーとして使用する場合にチェックします。Mac+ 等の ESC キーがないキーボードを使用している時に使用します。コマンドキーを押しながら ` キーを押すと ` を指定できます。

ハードウェアハンドシェーク

モデム-マック間でハードウェアハンドシェーク (RTS, CTS 制御) をする場合にチェックします。ハードウェアハンドシェークを指定していながらケーブルを接続しなかったり、ハードウェアハンドシェーク用ケーブルを使用しないとアプリケーションがストップすることがありますので注意して下さい。

ハードウェアハンドシェーク用ケーブルとしてデータスペック社のマック用モデムケーブルをお勧めします。

DTR を維持

DTR (Data Terminal Ready) 信号はモデム (または DCE) に対して端末側が準備が整っていることを知らせる信号です。通常モデムは DTR 信号が落ちた場合に回線を強制切断します。(通常アプリケーション終了時に DTR は落ちます)

DTR 信号を落とすことなくアプリケーションを終了させる場合にこのオプションを使用します。このオプションを使用すれば ActiveTalk から違う通信ソフトウェアに切り替えても回線が切断されることはありません。

しかしアプリケーション終了時に回線を切断するのを忘れてしまい、課金され続ける可能性がありますので十分注意して下さい。

20 行表示

画面の行数はデフォルトで 20 行で行間に余裕があり、読みやすいように設定されています。unix 端末として使用する場合は、この設定をオフにして 24 行表示に切り替えて下さい。

高速スクロール

このオプションがチェックされていると、ActiveTalk は受信データが画面表示処理速度に比べ著しく早く到達する場合に受信データを全て画面に表示せずに定期的に一部を表示させ、受信能力を高めます。

24 ビットカラー画面で使用する時、Mac Plus 等の処理速度が十分でないマシンで使用する時に有用です。

アンサーバック

端末が ENQ (16進数で 0x05)を受信した時に送信する文字列を指定します。デフォルトは VT100 に設定されています。この ENQ は B+プロトコルで異なる意味を持つためファイル転送設定の「B+プロトコルを使用」をチェックしている場合は、アンサーバックは行いません。

キャラクタ待ち・ライン待ち

テキスト送信・ペースト時の文字間に待ち時間を必要とする場合に指定します。単位は60秒分の1です。ライン待ちはリターンキーが送出された後の待ち時間を指定します。最大99まで指定できます。

タブ拡張

テキスト送信・ペースト時にデータに含まれる TAB (16進数で 0x09)をスペースに置き換える場合にチェックします。タブ値のデフォルトは4です。最大9まで指定できます。

同期キャラクタ

テキスト送信やペースト時に CR (改行)を送信後、ホストからエコーバックされるキャラクタを待ちながら送信したい場合に使用します。ホストの応答が異常に遅い場合やフロー制御ができない場合に使用し、このキャラクタを受信するまで送信は中断されます。^m(CR)、^j(LF)、>等がよく使われる同期キャラクタです。

ファイル転送...

ファイル転送設定

プロトコル XMODEM YMODEM ZMODEM
 Kermit C.T.B.

フォーマット Macintosh用バイナリ バイナリ テキスト

CRCチェックサム イスカーフロントボール ロングパケット

ダウンロード" テイル外りの指定 B+プロトコルを使用

クリエータ

プロトコル指定

ファイルメニューの「バイナリ送信...」「バイナリ受信...」で使用するプロトコルを指定します。XMODEM / YMODEM / ZMODEM / Kermit / Communication Toolbox ファイル転送ツールを指定できます。Communication Toolbox を使用するには、System 6 の場合はシステムフォルダ内の Communications Folder に、System 7 の場合はシステムフォルダ内の機能拡張フォルダにファイル転送ツールを入れて下さい。

フォーマット指定

XMODEM / YMODEM / ZMODEM / Kermit / B+のファイル転送フォーマットを指定します。

CRC チェックサム

XMODEM / YMODEM / ZMODEM 使用時に CRC チェックサムを使用する場合にチェックします。

エスケープコントロール

ZMODEM 使用時にコントロール文字 (0-31) が使用できない通信回線で、コントロール文字を 2 バイトに置き換えて転送する場合に使用します。

ロングパケット

Kermit 使用時にロングパケット長 (1024 バイト) に設定する場合に使用します。

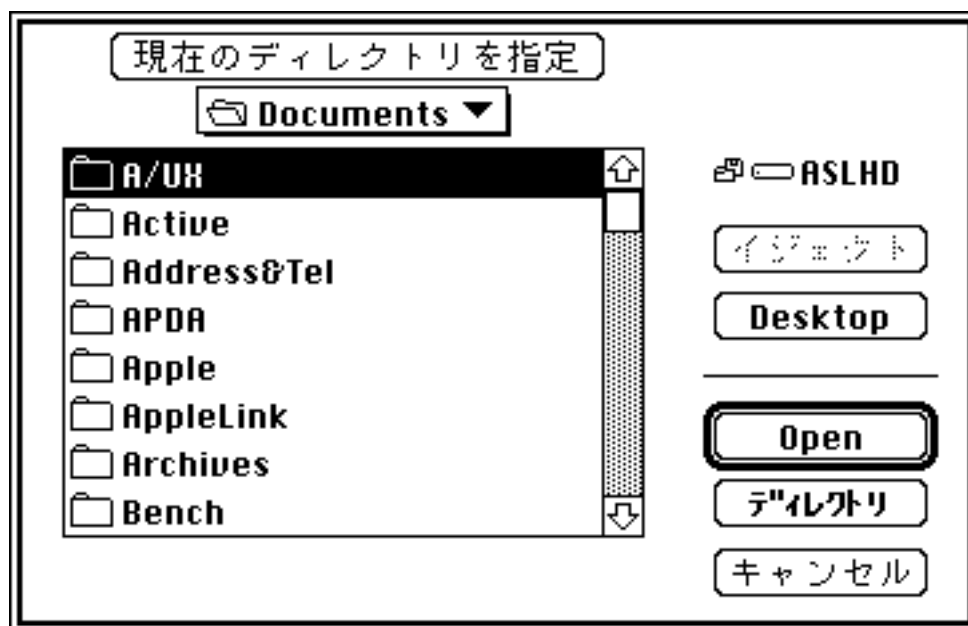
B+プロトコルを使用

NIFTY-Serve や CompuServe の標準ファイル転送プロトコルである B+を使用する場合にチェックします。

unix 端末として使用する場合や B+プロトコルをサポートしていない BBS に接続する場合はこの指定をオフにしてください。

ダウンロードディレクトリの指定

ファイル受信時に受信ファイルを特定のディレクトリに保存したい場合に指定します。以下のようなダイアログが表示されますので、ディレクトリを指定して下さい。



ディレクトリを指定していない場合はアプリケーションと同じディレクトリにファイルは保存されます。

クリエータ

テキストのクリエータタイプを指定します。デフォルトはフリーウェアエディタ ASLEdit+のクリエータである'AEDT'です。このクリエータはファイルをダウンロードしている途中の一時ファイルや、ログファイルの一部を保存するときにも使用されます。

アカウント & モデム設定

入会 & モデム設定		
電話番号	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/> ロック
モデム名	<input type="text" value="選択して下さい"/>	<input checked="" type="checkbox"/> スターター
AT パラメータ	<input type="text" value="AT&F"/>	<input type="checkbox"/> トーンを無視
ユーザーID	<input type="text"/>	<input checked="" type="radio"/> トーンダイヤル
パスワード	<input type="text"/>	<input type="radio"/> ハールスタダイヤル
		<input type="button" value="OK"/>
		<input type="button" value="キャンセル"/>

アカウント & モデム設定ダイアログはBBSの電話番号・ユーザーID・パスワードやモデムの機種・ATパラメータ等を設定するためのダイアログです。

電話番号

BBSの電話番号を入力します。

モデム名

使用するモデム名を指定します。もしこのメニューに貴方の使用しているモデム名がない場合は Hayes Compatible に設定して下さい。

ATパラメータ

モデムの初期化コマンドを入力します。上記のモデム名を指定すれば自動的にデフォルトが設定されます。

ユーザーID

ユーザIDを入力します。

パスワード

パスワードを入力します。パスワードはログファイルに格納されますのでログファイルを直接人に渡さないで下さい。

ロック

パスワードをロックします。

パスワードは暗号化されて保存されますので安全ですが、パスワードを忘れないように注意して下さい。

ログインスクリプト実行時などや、ロック解除時にもパスワードを尋ねます。

スピーカー

モデム音をモニタするかどうか指定します。

トーンを無視

ダイアルトーンを検出できない回線の場合に指定します。

トーンダイアル

パルスダイアル

電話回線がプッシュホンであればトーンダイアルに、パルス式であればパルスダイアルを指定します。

英語メニュー

ActiveTalk には日本語と英語のメニュー・ダイアログ・メッセージを内蔵しています。日本語 Mac OS ではデフォルトが日本語に、英語システムではデフォルトが英語に設定されています。好みによってメニューを切り替える場合に使用します。

日本語メニューに設定されているログファイルを英語システムで使用した場合には強制的に英語メニューに切り替えられます。再度日本語システムで日本語メニューに切り替えたい場合は、このメニューを選択して下さい。

スクリプトメニュー

スクリプト	
スクリプト編集...	
スクリプトファイルの実行...	

スクリプトの読み込み...	
スクリプトの書き出し...	

スクリプトの消去...	

Script 1	⌘1
Script 2	⌘2
Script 3	⌘3
Script 4	⌘4
Script 5	⌘5
Script 6	⌘6
Script 7	⌘7
Script 8	⌘8
Script 9	⌘9
Script 0	⌘0

スクリプト編集...

スクリプト編集

1 2 3 4 5
 6 7 8 9 0

スクリプト名

スクリプト内容

一覧表
スクリプト例
OK
キャンセル

汎用スクリプトを編集する場合に選択します。汎用スクリプトは10個利用できます。以下のようなダイアログが表示されますので、スクリプト番号をクリックしてスクリプトを編集します。スクリプト名を変更するとスクリプトメニューが更新され、メニューに表示されます。スクリプト名にスクリプト内容を意味する名前をつけると便利です。

スクリプトファイルの実行...

スクリプトファイルを実行する場合に使用します。

スクリプトの読み込み...

スクリプトをファイルから読み込む場合に使用します。

スクリプトの書き出し...

スクリプトをファイルに書き出す場合に使用します。

スクリプトの消去

全スクリプトを消去する場合に使用します。

Script 0 - 9

指定されたスクリプトを実行します。各スクリプト（0 - 9）はコマンドキーを押しながらスクリプト番号を入力したり、キーボードのファンクションキーの F 1 - F 1 0 を使用することにより実行可能です。（F 1 0 はスクリプト 0 を実行します）

スクリプトを強制中断するには ActiveTalk のウィンドウ内をマウスでクリックするか、command-.を押して下さい。

オプションメニュー

オプション	
ポートを開く...	
ポートを閉じる...	
接続要求を許可	

ログイン	⌘G
ログアウト	⌘K

ログ消去	⌘L
端末初期化	⌘Y

ブレーク送信	⌘B
回線切断	⌘H

ポートを開く...・ポートを閉じる...

ActiveTalk はポートが閉じている状態で、文字列を送信しようとしたときに自動的にポートを開きます。文字列を送信することなく、ポートを強制的に開きたい場合は「ポートを開く...」メニューを選択します。ポートを強制的に閉じたい場合は「ポートを閉じる...」メニューを選択します。

接続要求を許可

Communication Toolbox の Apple ADSP Tool や Telnet Tool などの Point To Point の送受信をサポートするコネクションツールを使用している場合、接続要求を許可させて受信待機させることができます。ADSP Tool の場合、ユーザが指定した名前でネットワーク上に受信待機中であることが伝えられます。接続要求を受けた場合、自動的に要求側と接続されます。接続が切れた後で自動的に接続要求を再度許可します。

このオプションをオンに設定してあるログファイルを開くときにシフトキーを押していれば接続要求を許可しません。

ログイン・ログアウト

ログイン・ログアウトスクリプトを実行します。

「ログイン...」を選択するとポートが開かれ、経過時間クロックがスタートし、ログインスクリプトが実行されます。

「ログアウト...」を選択するとログアウトスクリプトが実行されます。ログアウトスクリプト実行後ポートは閉じられ、経過時間クロックがストップします。

スクリプトを強制中断するには ActiveTalk のウィンドウ内をマウスでクリックするか、command-.を押して下さい。

ログ消去

ログファイルのテキストデータを消去する場合に使用します。

端末初期化

端末を初期化のために使用します。不当なエスケープシーケンスにより画面が乱れた場合などに有効です。

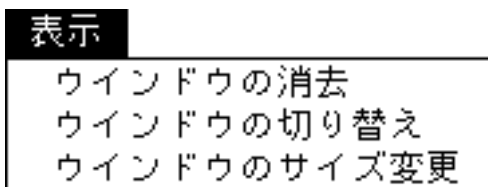
ブ레이크送信

ブ레이크信号を送信する場合に使用します。ブ레이크信号は主に処理の中断を伝えるために使用されます。unix 端末ではログイン時に端末スピードを変更するときなどに使用されます。ブ레이크信号は約 1 秒間送られます。

回線切断

モデム使用時に回線を切断する場合に使用します。モデムに対し "+++"を送信し、"OK"文字列を受信後に "ATH"ハンガアップコマンドを送信します。

表示メニュー



ウィンドウの消去

バックグラウンドのアプリケーション画面を見たい場合などに、このメニューを使用すれば端末画面を消去できます。

ウィンドウの切り替え

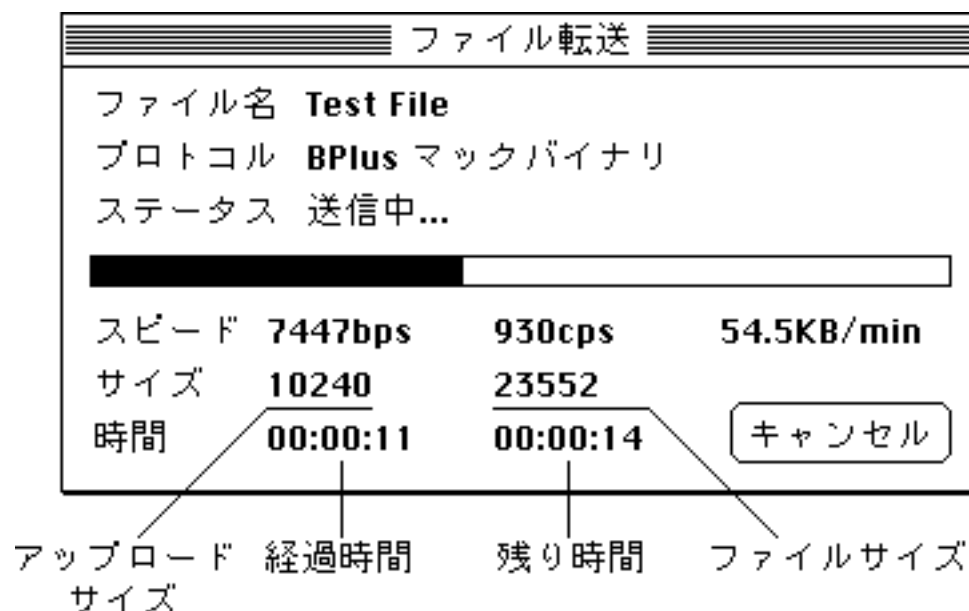
バックグラウンドのアプリケーションをフロントに切り替えます。

ウィンドウのサイズ変更

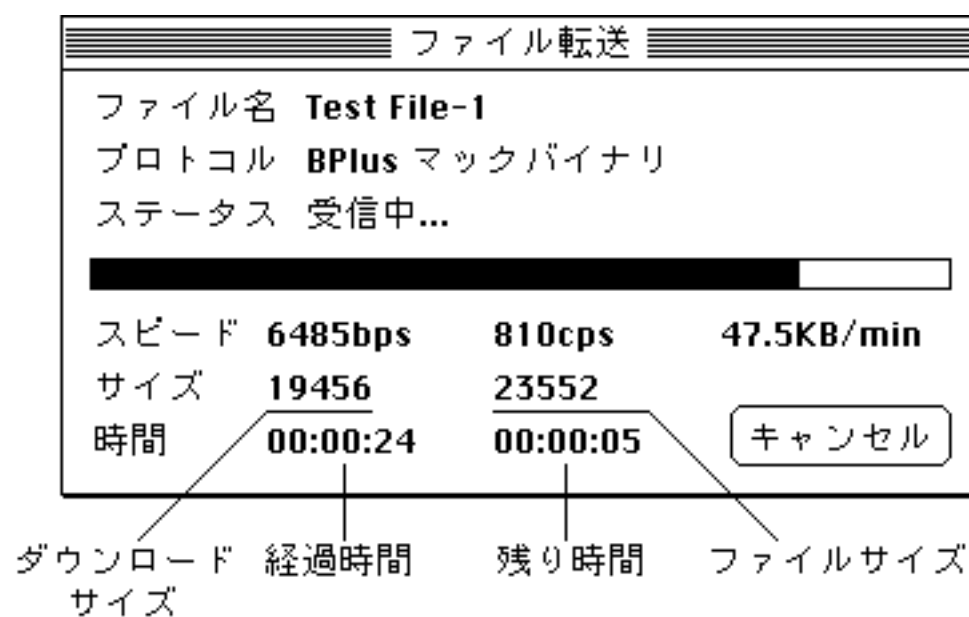
ウィンドウサイズを変更する場合に使用します。

ファイル転送ダイアログ

アップロード



ダウンロード



スクリプトコマンド

スクリプトコマンドについて

ActiveTalk のスクリプトコマンドは Autolog 3.2 のスクリプトと上位互換性があります。

*:<文字列>

コメント行です。

b:

通信ポートへブレイク信号を出力します。

c: <文字列>

AT ダイアルコマンドを記述します。リザルトは英語文字列で返される必要があります。CONNECT, RING, NO CARRIER, ERROR, NO DIALTONE, BUSY, NO ANSWER, BLACKLISTED NUMBER を識別します。

d: <数字>

<数字>で指定された時間だけ待ちます。<数字>は 1-999 を指定できます。
単位は 0.5 秒です。

h: <文字列>

キーボードから入力された文字列を通信ポートへ送信します。リターンは送信されません。<文字列>はダイアログに表示される文字列です。

キーボードからの入力は表示されません。パスワードの入力時等に使用します。

j: <ラベル>

<ラベル>へ進みます。<ラベル>は 0 から 9 までです。

p: <文字列>

キーボードから入力された文字列を通信ポートへ送信します。リターンは送信されません。<文字列>はダイアログに表示される文字列です。

キーボードからの入力は表示されます。ユーザー ID の入力時等に使用します。

q:

スクリプトを終了します。以降のスクリプトを実行したくないときに使用すると便利です。

r: <受信文字列>

受信文字列が通信ポートから入力されるのを待ちます。

r: <受信文字列> ト <ラベル 1 > : <受信文字列 1 >

受信文字列または受信文字列 1 が通信ポートから入力されるのを待ちます。受信文字列が入力されたときは次の行へ、受信文字列 1 が入力されたときはラベル 1 へ進みます。(トは option-f です)

s: <送信文字列>

送信文字列をモデムへ出力します。^ を使ってコントロール文字を出力することができます。^! は ^ 自身を出力します。

t: <ラベル> : <数字> : <受信文字列>

<数字>で指定された時間（単位は秒）受信文字列が入力されるのを待ちます。入力されたときは次の行へ、されなかったときはラベルへ進みます。<数字>は 1-999 を指定できます。

w: <通信ポート>

<通信ポート>を指定します。a がモデムポート、b がプリンターポートです。

拡張スクリプトコマンドについて

ActiveTalk には Autolog 3.2 でサポートしていない拡張スクリプトコマンドをサポートしています。

!: <文字列>

<文字列>をスクリプトステータスダイアログに表示します。現在どのスクリプトを実行しているかを示すため等に使用できます。

g:

マックのスピーカーからビープ音を発します。

q:h

オプションメニューの「回線切断」を実行し、スクリプトを終了します。

q:c

ポートを閉じてからスクリプトを終了します。

r: <受信文字列> ト <ラベル 1> : <受信文字列 1> ... ト <ラベル 10> : <受信文字列 10>

r: コマンドで受信文字列を 11 個まで指定できます。(トは option-f です)

s: コマンドと同じように ^ (コントロール文字) を r: t: で使用できます。

r: ^m> は行頭の > を待つことになります。

w: <通信ポート>

<通信ポート>の指定で、a:b:以外に c: Communication Toolbox、l: ローカルを指定できます。Communication Toolbox の Connection Tool を一度も選択していない場合は Serial Tool がデフォルトとして選択されます。ポートを開くときにも使用します。

=:p <通信速度> - <データ> - <ストップ> - <パリティ> - <フロー制御> - <通信形式>

通信ポートのパラメータ設定用スクリプトです。

*は現在の設定を変更したくない場合に使用します。

通信速度:	*,300,1200,2400,4800,9600,19200,38400,57600
データ:	*,7,8
ストップ:	*,1,2
パリティ:	*,N (No Parity), O (Odd Parity), E (Even Parity)
フロー制御:	*,X (XOn/Off), N (No Flow Control)
通信形式:	*,FULL (全二重), HALF (半二重)

使用例

=:p9600-8-1-N-X-FULL (9600BPS, 8 bit, 1 stop bit, No Parity, XOn/Off, 全二重)

=:p*-8-*-N (8 bit, No Parity)

=:p*-7-*-E (7 bit, Even Parity)

\$変数

\$変数はアカウント & モデム設定ダイアログの設定文字列を参照する場合に使用します。\$変数は c: r: s: t:スクリプトコマンドの引数に使用できます。

\$A:	アグリーメントナンバー
\$I:	ATパラメータ
\$M:	スピーカーオン・オフ (M1 もしくは M0)
\$N:	のトーンを無視 (X3 もしくはヌル文字列)
\$P:	パスワード
\$S:	シリアルナンバー
\$T:	電話番号
\$U:	ユーザID
\$X:	トーン・パルス (T もしくは P)
\$\$:	\$

^ 定数

^定数はコントロール文字を現す場合に使用します。^定数は c: r: s: t:スクリプトコマンドの引数に使用できます。^文字の後の英字一文字は大文字に変換され、64 が減算されて評価されます。r:及び t:の受信文字列では ^j (Line Feed), ^@ (Null)は使えませんので、注意して下さい。

String	ASCII	HEXA	String	ASCII	HEXA
^@	NUL	0x00	^p	DLE	0x10
^a	SOH	0x01	^q	DC1	0x11
^b	STX	0x02	^r	DC2	0x12
^c	ETX	0x03	^s	DC3	0x13
^d	EOT	0x04	^t	DC4	0x14
^e	ENQ	0x05	^u	NAK	0x15
^f	ACK	0x06	^v	SYN	0x16
^g	BEL	0x07	^w	ETB	0x17
^h	BS	0x08	^x	CAN	0x18
^i	HT	0x09	^y	EM	0x19
^j	LF	0x0A	^z	SUB	0x1A
^k	VT	0x0B	^[ESC	0x1B
^l	FF	0x0C	^¥	FS	0x1C
^m	CR	0x0D	^]	GS	0x1D
^n	SO	0x0E	^^	RS	0x1E
^o	SI	0x0F	^_	US	0x1F
^!	^	0x5E			
^?	DEL	0x7F			

エスケープシーケンス

ActiveTalk Escape Sequence Summary (* implemented)

*	NUL	Null
*	ENQ	Enquiry
*	BEL	Bell
*	BS	Backspace
*	HT	Horizontal tabulation
*	LF	Line feed
*	VT	Vertical tabulation
*	FF	Form feed
*	CR	Carriage return
*	SO	Shift out
*	SI	Shift in
*	DC1 (XON)	Device control 1
*	DC3 (XOFF)	Device control 3
*	CAN	Cancel
*	SUB	Substitute
*	ESC	Escape
*	DEL	Delete
*	IND	Index
*	NEL	Next line
*	HTS	Horizontal tab set
*	RI	Reverse index
	DCS	Device control string
*	CSI	Control sequence introducer
	ST	String terminator

*	ESC [Pn A	Cursor up
*	ESC [Pn B	Cursor down
*	ESC [Pn C	Cursor forward
*	ESC [Pn D	Cursor backward
*	ESC [PI ; Pc H	Cursor position
*	ESC [PI ; Pc f	Horizontal and vertical position
*	ESC D (IND)	Index
*	ESC E (NEL)	Next line
*	ESC M (RI)	Reverse index
*	ESC 7	Save cursor
*	ESC 8	Restore cursor
	ESC # 3	Double-height line (upper)
	ESC # 4	Double-height line (lower)
	ESC # 5	Single-width line
	ESC # 6	Double-width line
*	ESC [0 m	All attribute off
*	ESC [1 m	Display bold
*	ESC [4 m	Display underscored
	ESC [5 m	Display blinking
*	ESC [7 m	Display negative image
*	ESC [{0} K	Erase end of line
*	ESC [1 K	Erase beginning of line
*	ESC [2 K	Erase complete line

*	ESC [{0} J	Erase end of screen
*	ESC [1 J	Erase beginning of screen
*	ESC [2 J	Erase complete display
*	ESC [0 q	Turn off all LED
*	ESC [1 q	Turn on LED1
*	ESC [2 q	Turn on LED2
*	ESC [3 q	Turn on LED3
*	ESC [4 q	Turn on LED4
*	ESC (Invoke character set into G0
*	ESC)	Invoke character set into G1
*	ESC *	Invoke character set into G2
*	ESC +	Invoke character set into G3
*	ESC [Pt ; Pb r	Set top and bottom margin
*	ESC H	Horizontal tab set
*	ESC [{0} g	Tabulation clear
*	ESC [3 g	All tabulation clear
*	ESC [4 (h II)	Set mode insert / replace
	ESC [7 (h II)	Set mode vertical editing
*	ESC [20 (h II)	Set mode line feed / new line
*	ESC [? 1 (h II)	Set mode cursor key appl / cursor
*	ESC [? 5 (h II)	Set mode screen reverse / normal
*	ESC [? 6 (h II)	Set mode origin origin / absolute
*	ESC [? 7 (h II)	Set mode auto wrap on / off
	ESC [? 8 (h II)	Set mode auto repeat on / off
	ESC [? 12 (h II)	Set mode kana shift on / off

*	ESC =	Set mode application keypad
*	ESC >	Set mode numeric keypad
*	ESC [6 n (ESC [P1 ; Pc R)	Cursor position report
*	ESC [5 n (ESC [(0 3) n)	Terminal status report
*	ESC [{0} c (ESC [? 18 ; 2 c)	Device attribute
*	ESC c	Hard terminal reset
	ESC # 8	Adjustments test
	ESC [2 ; Ps y	Test
*	ESC [Pn P	Delete character
*	ESC [Pn L	Insert line
*	ESC [Pn M	Delete line

Q&A

Q : ActiveTalk を使おうとしても強制的に終了してしまいます。

A : ActiveTalk は、1 ライセンスで一つ使用できます。

Q : テキスト・バイナリのアップロード時に文字化け・エラーが頻発します。

A : モデムの通信速度とマック・モデム間の通信速度が違う場合にはフローコントロールが重要です。データスペックのモデムケーブルはハードウェアハンドシェイクが可能ですので、設定メニューの端末設定ダイアログの「ハードウェアハンドシェイク」チェックアイテムをオンに設定してください。

サポート窓口

インターネット窓口

最新情報やライセンスキー購入方法は <http://www.activeopen.co.jp> をご覧下さい。

セールスに関するご質問や、ユーザサポート、キーウェア版の CD-ROM 等への添付については、電子メールで activeopen@mac.com 山田宛に、もしくはお電話 (03-5337-7665) でご相談下さい。

リリースノート

2.0 5/8/2004

ActiveWare 版 ActiveTalk インシヤルリリース